

もも・ネクタリン特報

②

R2. 3.17 No.2
J A 中野市営農センター
J A 中野市りんご・もも部会

生育は、平年よりも10～14日程度進んでいると思われますが、今後の気象により大きく変動しますので、生育状況をよく確認し、適期防除と管理作業を進めましょう。また、せん孔細菌病の発生する園地では、春型枝病斑の除去を徹底しましょう。

【過去の開花状況と本年の予想】 白鳳 平岡調査地点

年 度	平年	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1	本年（平年より14日進んだ場合）
開 花	4／19	4／10	4／19	4／12	4／20	4／5？

1．開花始め（1～2輪咲きの頃）の散布

＊薬液が枝にしっかりかかるよう、丁寧に散布する。 ＊収穫中の作物等へ飛散しないよう、十分注意する

散布時期

開花1～2輪咲きの頃（4月初旬～上旬）

散布薬剤

水

100ℓ当り

アビオンE

100ml

IC ボルドー412

3.3kg

← 固着性展着剤

散布日

4月

日

散布量

リットル

対象病虫害

せん孔細菌病

散布量

107ℓ当り

350ℓ

【注意事項】

① 混用順：水 ⇒ アビオンE ⇒ IC ボルドー412

② 展葉後の散布は薬害発生の恐れがあるため、散布時期を厳守する。

③ アビオンEに代えて、KKステッカーの3000倍を使用してもよい。（KKステッカーは必ず最後に調合する）

④ モモのみ、IC ボルドーに代えて、4-12式ボルドー液でもよい。（ネクタリンは、4-12式ボルドー液の登録がない）

【せん孔細菌病対策（薬剤散布以外）】

- ① 伝染源となる春型枝病斑をこまめに切除し、園外で処分する。 必須作業
- ＊開花期以降、7～10日間に1回、必ず枝病斑の発生状況を確認し、見つけ次第切除する。
- ② 風当たりの強い園地で発病しやすいので、防風林、防風ネット等を設置する。
- ③ 排水性の悪い園地や、弱・強樹勢樹に発病しやすいので、排水対策など園内環境整備や適樹勢化に努める

次ページもご覧ください

次回特報発行予定：3/30
内容：落花後の薬剤散布

2. 当面の栽培管理

(1) 摘蕾・摘花 : 大玉良品生産のため、結実の良い品種は必ず実施する。

結実の良好な品種で、摘蕾をまだ実施していない場合は、間に合い次第実施する。

遅れた場合は落花期までに花摘みを行なう。

◎摘蕾適期：花芽の先端にピンク色を認めた頃

◎摘蕾の方法

①主枝・亜主枝・側枝など伸ばす枝の延長枝はすべて摘蕾し、垂れないよう強く保つ。

②上向きの蕾を除く。下向きおよび横向きは残す。

③さらに長果枝(30～50cm)の根元の3分の1、
中果枝(15～30cm)の先端部以外は除く。
短果枝は4～5短枝当り1芽残す。

注意：凍霜害が心配される場合は、強摘蕾は行わない。

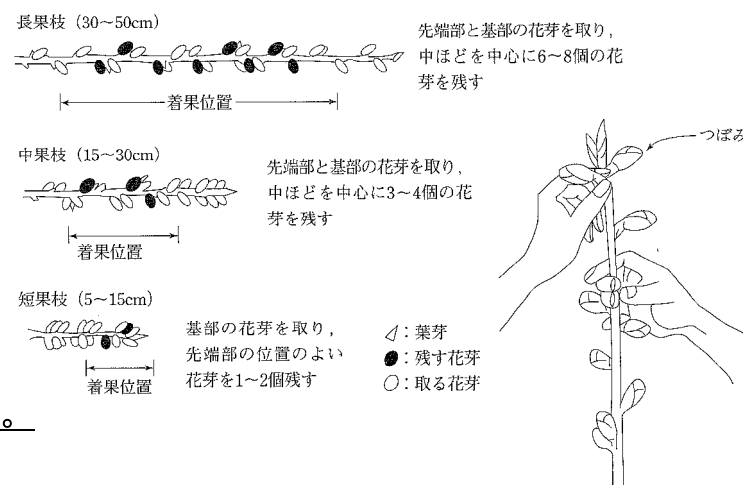


図1-10 摘蕾の方法

◎着果管理の流れ

①花粉のある品種 : 摘蕾・摘花 ⇒ 予備摘果 ⇒ 仕上げ摘果 ⇒ 被袋時の見直し

②花粉のない品種 : 予備摘果 ⇒ 仕上げ摘果 ⇒ 被袋時の見直し
(花粉のない品種でも場所により結実が良好な場合は(1)に準ずる)

*花粉のある品種は、早く摘果をすすめ良い幼果をつくとともに樹勢を保つ。

花粉のない品種は、結実を確認し変形のない肥大の良い果実を残す。

*白鳳系・あかつき・赤宝・山根白桃・なつっこ・白根白桃などは摘蕾する。

*川中島白桃などの品種で結実が安定しない場合は、摘蕾を控える。

(2) 人工授粉・・・昨年、「川中島白桃」が結実不良であった園地は、必ず人工授粉を実施する

花粉が少ない品種や全く無い品種は、必ず人工授粉を行なってください。あらかじめ開葯し採取した花粉で受粉することが最良ですが、授粉樹(花粉の多い品種)で開花している花の花粉を毛バタキ・綿棒に付けて受粉(相互交配)する方法もあります。 ◎授粉適期：満開期(全体の80%程度が咲いた頃)

もも貯蔵花粉の受付

もも・ネクタリンは天候状態により開花・満開が極端に進み、当用花粉では間に合わない場合や、凍害に遭遇した時に花粉のある品種でも人工受粉が必要となる可能性がありますので、桃花粉の貯蔵をおすすめします。

◆共同開葯所(ぶどうセンター内)では、次年度に使用するための貯蔵花粉の受付を行います。

◆採取する花は、白鳳・あかつき・なつっこ・山根白桃・白根白桃など花粉の多い品種がおすすめです。

(3) 春に苗木を定植する場合の注意点

春に苗木を定植した場合、土壤の乾燥による生育不良が心配されます。

降雨がない日が3～4日続く場合は、こまめにかん水を行ない、土壤の乾燥防止に努めましょう。